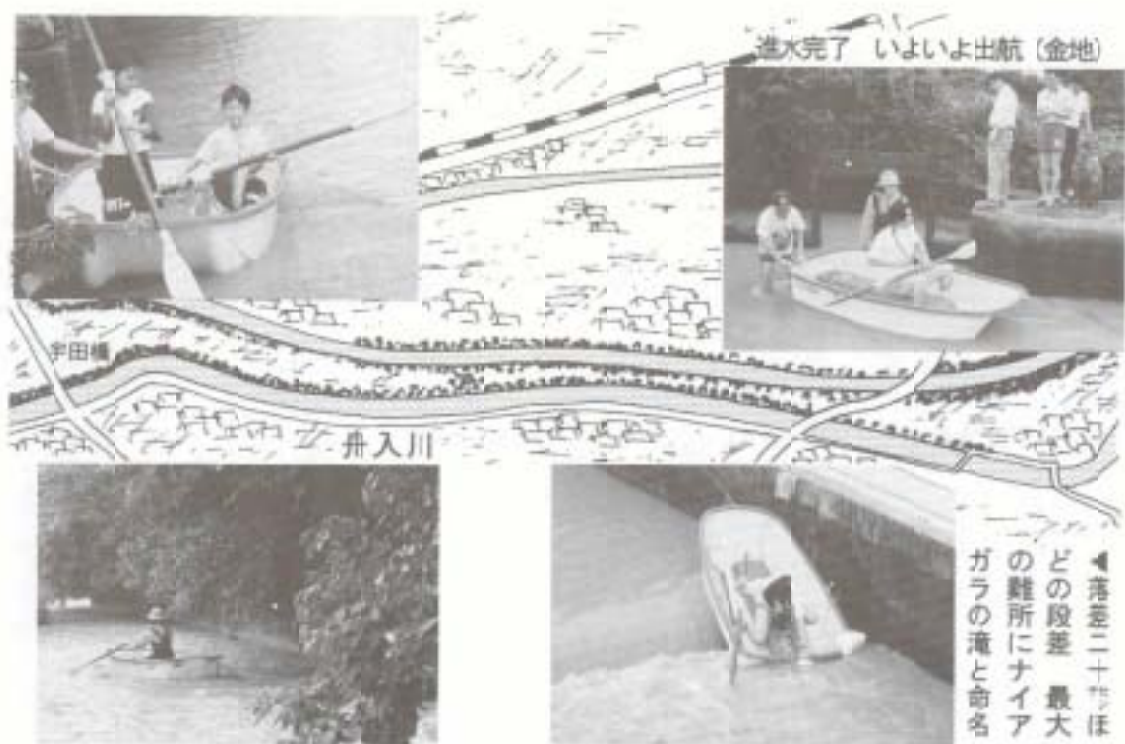


舟入川で大はしゃぎ

〜広報委員舟入川川下り記〜



4 落差二十センチほどの段差 最大の難所にナイアのロープと命綱

野中兼山によつてつくられた、これまで南国市を流るおしてきた舟入川。先月の南国再発見ではそんな舟入川にスポットを当ててみました。『舟入川を語るにはまず下つてみるしかない』という思いにより、広報委員が川下り「流れる川」(Funai River)「南国市」(Nankoku City)「無事」(Safe)「川下り」(River Rafting)が出来るでしょうか。

前日のかかりの雨で水は濁っている。水量はあるが、五センチくらいの高さの滝(段差)が点々とある。ボートをいざ進水という段になって乗り手はほとんどちやく。伴走員としては他人事ゆえ「そこにおいしうな野いちごが……」などといったひんしゆくを言う。何のさわざかと家から出てきて遠くから眺めていたおじさん、おさわがせしました。いっちは静かな舟入川なんです。スネ上程度の水量に、ボートはとどきどき底をすりながらスイスイ、いくつかの滝下りではキヤーカー、いっていいものの、上野田辺りでは、右側の上り地から木々が覆ってきて緑の中をすべるようにぐりぬけるボート。「涼しい!」と満悦の表情、農業高

校の下で川にはいつて遊んでいる小学生に「のいちよつてよ、のいちよつてよ」と叫びながらの川下り。あらためてブレーキがないというのはこわいです。手綱をひいて陸を歩いていますが、橋があればぐらさなにかんし、ま、気休め程度、宇田では観客数人。「あしらの子供のころ、朝、今日はいかだが通ると自転車に乗ってふれてまわつてきたら、すぐに取水口や支流への入口をせき止めて水位を上げるのが役目じゃつて、せきの板が重うてひと仕事じゃつた」やはり舟入川下りは舟に乗るに際す。土佐山田町の境から日吉町の親水公園まで小一時間、乗った方がぜったい楽しかったボート下りでした。



舟入川体感レポート

川の中から見える景色は、子供たちの風景や水遊びへと心を運ばせた。なんと懐かしい郷愁、しかし、現在の舟入川は、コンクリートの三面張りである。歴史がつくってきた川も時代の中で変わってしまったのか。ボートで下つ

ていて、もっとこの川の活用方法があるのではないかと(管理者が許せば)と考えた。例えば、「舟入川川中マラソン」「花いっぱい散歩道」とか……川の中でいろいろ楽しい夢を見た。

平成 舟入川をマツた感想

昭和二十年ころまでは、いかだが流れ、船頭さんが長い青竹で舵とりをしたであらう同じ川を、初めてボートで下りました。二日続きの雨の後で水量も結構あり、ボートが転覆したらど

うしようという心配ばかりでしたが、いざ下つてみると流れはやさしく、はしの下をくぐるときはスリルはとても楽しく、陸から見る風景とはまた違った舟入川が新鮮でした。



舟入川は昭和20年ぐらいまでいかだが下り、子供たちの遊び場になっていました。3人の方にそのときの思い出を話してもらいました。

舟入川 池田章 (明治四十五年生 金地)
残さるる連山田げき明易しどこからか風鈴舟入川懸すはしり通く長蛇の筏亡し暑し大茂亡がまたのよしきりも炎昼の筏こめ川父母の死後

中島義徳さん(大正九年生 包末)

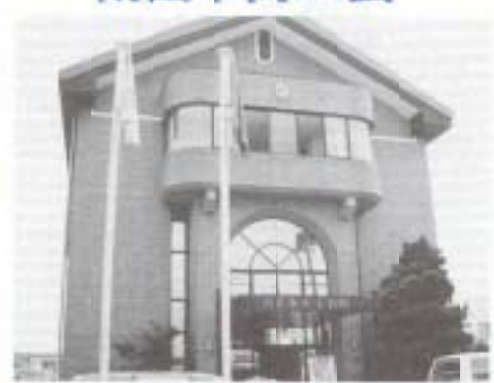
昭和八年に小学校を卒業してありますが、そのころの舟入川の思い出といえば、いかだ流しと二月の川干の事です。川干のときは、大人も、子供も、また、連路集まつてきた人々に、エノコギリ、ウナギ、フナなどたくさんとれて、それはにぎわったものです。夏の夜はもちろん、ほたるが無数に飛び交い、情緒がありました。

細川義彰さん(上野田)

いかだが流れてくると、近所の子供たちがふんしと姿で橋の上、道から、いかだに飛び移りました。いかだは杉、ヒノキ四、五本の束を三つくらいつないだもの、舵をとっていたおじさんが、いつもアメをくれました。いかだと舟にはさまれけがをした者もいたり、みんな、ちよつとした冒険を楽しんでいました。

あなたの職場に、ぜひお越しください。

南国市商工会



今月は南国市内の九互近い商工業者が加入している南国市商工会を訪ね、経営指導補助員の浜田りささんに業務内容などについて説明してもらいました。

商工会の主な業務は、経営相談、記帳指導、地域商工業振興のためのイベントの実施などで現在九人の職員が働いています。平均年齢は三十八歳、四人の美しい女性がいて、明るく楽しい雰囲気職場です。

現在の商工会館は、昭和六十二年に建築され、一、二階が事務所、会議室、三階はホールになっています。このホールは、講演会など約四百人収容でき、コンサートなどの文化イベントにも活用されています。使用料も民間施設の三分の一程度で、市民の方が利用しやすくなっています。

商工会には、青年部と婦人部があり、「チャリティービアガーデン」や夏休みを利用しての「小学生企業訪問」、「カラオケ教室」などを行っています。

商工会が主催する「商工まつり」は今年で十八回目になりますが、決まったかたがないため、毎年、企画に苦労しているとのことでした。今年も、秋に「花をメインにしたまちづくり」をテーマに楽しいイベントを考えているそうです。



お話を聞かせてくれた職員の方たち